

H. P. Report

セキュリティと暗号 (5)

セキュリティということで、盗聴についていろいろその方法を書いてきましたが、今回はウィルスで有名になっている、IISやIEのセキュリティホールについてです。ウィルスの感染が話題になると必ず話題になるのが、IISやIEのセキュリティホールです。ではセキュリティホールとはどのようなものなのでしょうか。

これまで良くあったメールによるウィルスは、主にウィルスとなるプログラムを、添付ファイルとして送るものでした。添付ファイルにはいろいろなファイルを添付することができるため、例えば、実行可能なアプリケーションの形で添付することによって、送り先のパソコンでプログラムを実行し、常駐プログラムとして時間がたった段階で突然動き始めてハードディスクの中身を破壊したり、自動でアドレス帳に登録されている相手先に同じメールを送信したりしました。また、EXCELのマクロプログラムとしてファイルにしのばせ、同じ様に破壊、感染したりしたものです。これらのウィルスは、添付ファイルやマクロプログラムを利用したもので、危なそうなものは開けてみないなどの対処で対応できそうなものなのですが、先日有名になったウィルスは、相手先の言語によって内容を変更する(これまでのメールによるウィルスは英語が中心であったため、変な英語のメールがきても対応できたのですが、このウィルスは日本語の件名や内容に自動でなる)ため、友人からきたメールと思って開けてしまうなど手が込んできています。

さて、本題のセキュリティホールについてですが、セキュリティホールとはどういうものなのでしょうか。セキュリティホールにはISSやIEのバグとしてマイクロソフトが認めたものと、本来の機能の悪用としてマイクロソフトとして仕様とっているものがあります。バグの場合は、本来は動いてはいけない動き方、例えば、本来ホームページを構成している言語ではパソコンの内部設定までアクセスできないはずなのですが、そこにあるバグの部分を利用して直接でなく間接的にパソコン内部の設定を操作したりします。ホームページをあけると本来のホームページの表示言語だけでは出来ないコンテンツが良くあります。ホームページはHTMLという言語で主に表示されていますが、それだけではどうしても表現に限界があるため、Javaと呼ばれる言語でかかれたプログラム(アプレット)をネットワークを通じて読み込みパソコン上で利用するようになっていきます。このJavaもネットワークを中心につくられた言語ですから本来はセキュリティ的に問題ないはずなのですが、Javaはすべてのプログラムを含んでいるわけではないので、一部パソコンのOSのプログラムを利用することになります。この部分で外からの別のプログラムが動ける環境を整える働きをしたりします。これがセキュリティホールで、この部分を突いたウィルスがいろいろと出てくるような状態です。IEに対するウィルスが多いのは、IEの品質が悪いのではなく、これだけの市場シェアをもっているために同じ努力をするのであればIEのほうをウィルスを作り出す側が選択したためです。他に狙われるところとしてIEの便利な機能を突いたものもあります。メールでも未読のメールを自動で開く機能もよく狙われます。

IEのセキュリティホールはまだまだあるようで、完璧なものになることを期待することは難しいようです。利用する側としてはセキュリティホールに対する情報を早く捉えて対処するしかありません。最低限対岸の火事ではないことを理解する必要があります。

(次回へ続く)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 5月6日号

特集 Ethernetがやってきた

→情報家電のネットワークとして、これまでは配線のいらぬことから無線ネットワークが中心であったが、オフィスで磨かれたコストパフォーマンスで無線LANを含めたEthernetが一気に家庭内ネットワークの主役に踊り出た。

○日経パソコン 5月13日号

特集 知らないからネットがコワイ

→ネットはいろいろなところとつながっている、仕組みや意味がよくわからないため、異常に怖く感じられる(実際はノー天気な人も多いが)。特集では、日々のネット利用で出くわす、思わずマウスを動かす手が止まってしまうような状況を取り上げ、どう行動すればよいかを解説。個人情報を入力するときの心得から、決断(yes or no)を迫られたとき、不穏な画面の動きなど。

特集 インターネットへ接続!基礎の基礎

→インターネットへの接続について、初心者のもとより、何気なく使っていた人を含めて、基礎の基礎から改めて整理。

○日経オープンシステム 5月号

特集 ランニングコストを見直せ

→アクセス数の増加や求められる信頼性の変化などから、どこにどう投資すればよいかを判断するために、サーバ環境のランニングコストを見直す企業が増えてきた。見直しの観点ごとにその解説。

○日経ネットビジネス 5月10日号

特集 日本のトップサイトはこれだ!

→日経ネットビジネス独自のサイトランキング。9つのジャンルに分けて1400人にアンケート調査。傾向としては1強他弱。各ジャンルで1位がそれ以下に大きく水をあけている。

特集 B to Bの成否は“カタログ”が握る

→調達をネットで行うB to B。なかなか進まず、コスト削減もままならないのは、カタログの電子化が充分でないため。一般ユーザ向けでない企業向けの電子カタログとは。これからのB to Bの成否を握る電子カタログの作り方。

○DOS/V magazine 6月1日号

特集 磨けばヒカル!ハードウェア

→インターネットへの常時接続環境になったことによって、BIOSやファームウェア、ドライバなどのアップデートがこれまで以上に、日常的にできるようになった。アップデートでハードウェアを磨くことができる。

特集 /Vmag. 流セキュリティポリシーのススメ

→常時接続環境になることによって、これまで被害者にならなければ良かったものが、加害者にもなりかねない。常時接続環境におけるセキュリティをどう考えればよいか。その考え方をセキュリティポリシーと

して解説し、そのテクニックを公開。

特集 最新USB 2. 0デバイス実力解明

→USB 1. 1の40倍ものスピードが出せるUSB 2. 0。対応したチップセット搭載のマザーボードの発売を機に、対応デバイスと1. 1との比較を行う。